

平成29年度在宅医療・介護連携推進事業 第1回推進チーム連絡会（H.29年5月25日）

平成29年度第1回推進チーム連絡会は新メンバー3名が加わり39名の参加者で開催しました。

開会のあいさつで、花牟禮推進委員長より、本事業は地域包括ケアシステム構築に向けて継続して将来に繋げていく為に必要なものである。この推進チームの皆で構築に向けての基礎を作り上げて行くところです。と事業の重要性と自分たちの役割について述べられました。

【グループワーク】

協議内容はそれぞれ3グループで分かれて、昨年度作成したスケジュールに基づき、より具体的な活動内容について協議し、企画やそれに向けた日程、準備についてなど、詳細な内容について意見が交わされました。



調査広報を担当する【チームCKH】は研修企画の参考調査として医療・介護関係機関職員に向けたアンケートを実施し、集計結果を他2チームへ連携する作業を進めています。一方では地域資源マップ作成に取り組み、医療、介護関係機関で必要な情報についてのアンケート実施の検討を進めています。



在宅医療・介護連携について研修企画を担当する【チームトレプラ】はチームCKHの集計データを基に研修会や講演会の企画を進める予定にしていますが、初めに在宅医療介護連携推進事業についての概要など地域医療、介護の関係スタッフに知ってもらう研修会の開催を企画し準備を進めています。



在宅医療体制構築を担当する【おうちに帰ろう班】は訪問診療を行う医師を増やすための取組みについての企画や、地域住民への在宅医療についての相談対応についての計画を進めています。医師への負担軽減に繋がる訪問看護との連携やMCSを活用する情報共有についてなど医師や地域に向けた講座、広報窓口開設の実施に向け取組を進めています。

閉会のあいさつでは、推進副委員長である牧野先生が「包括ケアシステムが構築できない市は衰退していく」と慶応義塾大学、田中滋名誉教授の言葉を述べられました。行政に発破をかけてチームの皆さんと協力して、「いつまでも住み続ける事ができるいちき串木野市」の地域づくりに取り組んでいきたいと思います。締めくくられました。